

ありがとうおにいちゃん

ぼくはじぶんのなまえをとてきにいっています。この「は」というなまえをつけてくれたのが、ぼくのおにいちゃんです。ずっとおとうとがほしかったおにいちゃんは、ぼくがうまれたのをとてもよろこんで、「ぼくがなまえをつける！」といっ、まわりのいうことをきかなかったそうです。

7さいとしがはなれているから、おにいちゃんはぼくよりたくさんのおしえてくれます。だからぼくにいろいろなことをおしえてくれます。がつこうがきゆうこうになって、ふたりでるすばんをしていたときには、ひらがなのかきかたをおしえてくれました。しゆくだいのまるつけもしてくれて、ぼくがかいていないところをおしえてくれました。おにいちゃんはちゅうがくせいだから、ぶかつどうやべんきようでいそがしそうにしているけど、いっしょにあそんでくれるときもあります。ぼくは、おにいちゃんとあそぶじかんがだいすきです。でも、げーむにまけてぼくがなくなると、おにいちゃんは「な

くなら、もうあそばないからね。」といっ、おこります。おにいちゃんは、てかげんをしてくれません。

ときどきおにいちゃんは、ぼくのならいごとのむかえに、じてんしゃできてくれます。おかあさんがいそがしいときは、いっしょにおふろにはいってくれます。あつたかくてきもちがいいおふろに、ふたりでのんびりはいるのがたのしいです。

どうろをわたるときは、てをつないでくれて、ぼくのにもつをもつてくれます。ぼくはいつもたすけてもらいます。おにいちゃんとけんかをすることもあるけど、ぼくはおにいちゃんがかぞくのなかでいちばんすきです。

おにいちゃんは、おとなになったら、うちゅうにろけつととばすひになりたいそうです。ぼくもおなじしごとをして、おとなになつてもおにいちゃんのちかくにいて、こんどはぼくがおにいちゃんをたすけたいです。

おにいちゃん、いつもありがとう。

岩谷 遥斗^{いわたに はると}